

【中学校・数学】

平成 30 年度の重点

1 指導計画及び評価計画の工夫・改善

- 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着と、思考力・表現力の育成がバランスよく図られるよう、数学的活動の一層の充実とともに、スパイラルによる教育課程の編成や学び直しの機会の設定に配慮するなど、指導計画の工夫・改善に努める。また、課題学習については、生徒の数学的活動への取組を促すことに配慮して指導計画に適切に位置付ける。
- 4つの領域（「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」）の相互の関連性を図るよう配慮する。
- 評価計画の作成に当たっては、「数学への関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量、図形などについての知識・理解」について、評価規準を設定するとともに、適切な評価がなされるよう、工夫・改善に努める。

2 指導方法及び評価方法の工夫・改善

- 数学を学ぶことの楽しさや充実感を味わえるよう、実生活や科学技術との関連を図り、観察、操作、実験などの具体的活動や数理的な考察を重視する数学的活動の充実を図る。
- 生徒が自ら課題を発見し、意欲的に学習できるように、教材提示や粘り強く考え続ける場の設定等の指導方法の工夫・改善に努める。
- 形式的操作や数学的な技能と原理・法則との関連を重視し、発達の段階を考慮し、具体的な内容と関連付けて取り扱うよう配慮する。
- 生徒一人ひとりの思考の筋道やつまづきなどを的確にとらえることができるよう、指導と評価を工夫・改善するとともに、学び直しの機会を含めたきめ細かな指導に配慮する。また、多様な考え方を生かすとともに、見通しや振り返りを大切に、個に応じた指導の充実を努める。
- 自分の考えを的確に表現・発表し、話し合いを通して学び合えるよう、表現力やコミュニケーション能力の育成に努めるとともに、集団を大切にした指導の充実を努める。
- 言葉や数、式、図、表、グラフなどを使って、具体的な場面と関連を図りながら、指導の工夫・改善に努める。
- 学習指導に当たっては、生徒の学習状況を十分配慮して展開されるよう、指導と評価の工夫・改善に努める。

3 指導における留意点

- 言語活動の充実を図る観点から、表現する機会の充実を図る。
- 道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、道徳の内容について、数学科の特質に応じて適切な指導をする。
- 全国学力・学習状況調査等の調査結果も踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力をバランスよく育成するために、各校における児童の実態に応じた具体的な視点をもって授業の改善・充実を図る。

参考

◆ 県教育委員会ホームページ

- 評価資料集Ⅳ－評価活動の参考資料として－中学校

<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/606564.pdf>

- 教育課程編成の指針（幼稚園、小学校、中学校）中学校数学（平成 22 年作成）

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6668/index.html>

- 教育課程編成の指針（幼稚園、小学校、中学校）中学校数学（平成 30 年作成）

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/kyouikukateisisinn.html>

◆ 文部科学省ホームページ

- 移行措置関連資料

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387780.htm